

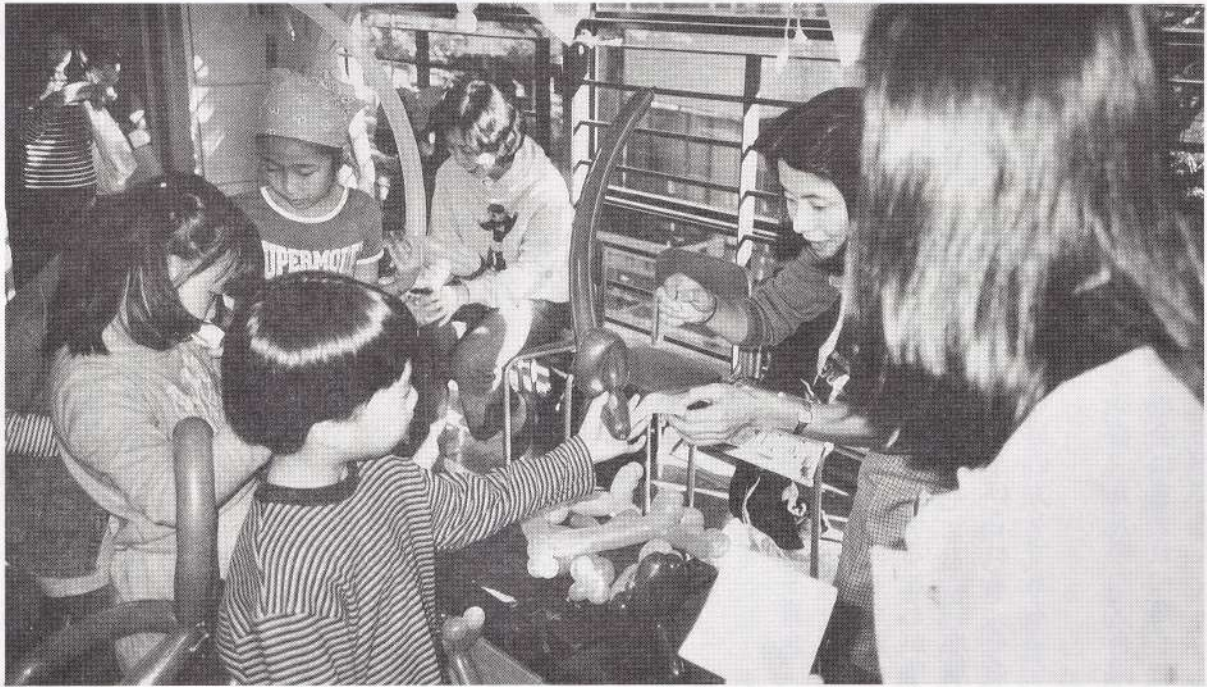
千代田区 青少年委員だより

千代田区教育委員会
千代田区青少年委員会

第29号

平成12年3月10日

ふうせん細工のお店を手伝う青少年委員（一番町児童館まつり）



青少年委員は地域や区・学校などのかたがたと協力して青少年の健全な成長を見守っていきます。研修会等を通じて、自己啓発に努め、学校と地域を最短距離で結ぶパイプ役をめざしています。

青少年に豊かな心とより良い環境を

青少年委員会 会長 川原 弘



最近、学校で起こっている学級崩壊は文部省の中間報告にあるように三割は家庭や子ども自身の問題（家庭における基本的なしつけ）に問題があることが分かり、特に小学校の低学年では学校に入学する以前の問題と指摘されており、

個人主義が進み、よその子どもに目を向けたがらない親、無責任な放任、迷惑を掛けないといった社会生活のルールを教え込まない親が増え、各家庭が孤立化し、子育てについて十分な情報がなかなか入りにくいという状況にあります。

本年度の青少年委員の活動は、昨年、企画委員会で討議されて来た「家庭教育」に続き「子どものしつけ」をテーマで専門家、父親、母親、地域、学校の立場の経験談を伺い「これからの家庭教育の在り方」について研修を積み重ねてまいりました。

今までの研修活動を生かし学校、地域、家庭との連携のパイプをより太くするため、青少年委員全員で取り組んでまいりたいと考えておりますので御意見、御要望をお聞かせ下さい。今後とも青少年委員会に対しましてご理解とご協力をお願い申し上げます。

青少年委員に期待すること④

前号に引き続き青少年委員の活動に対してご意見をうかがいました。

幼児教育と青少年委員の役割

都立教育研究所 幼児教育部
指導主事 藤井 千恵子



子育てが難しい時代となった。かつては、子育てに多くの家族や親類、地域の人々がかかり、それぞれの知恵を出し合い、共に育てる状況があった。しかし、現在、母親は家庭の中で、ともすると一日中子どもと二人だけの生活を送るという事態も生じている。

今、幼児を育てている保護者の特徴について、前朝日新聞社「幼稚園ママ」の編集長・西東桂子氏は次のように分析している。

- 共通一次世代で偏差値に翻弄され我が子の成績の順位が気になる。(成績至上主義)
- 男女雇用機会均等法の体験 男女平等思想が強い。
- 高度成長期に生まれ、豊かな生活、バブル期の女子社員、ブランド世代でもあり、よいものを見極める力もっている。
- 新人類といわれた世代 子どもでなく自分が中心になりたい。
- マニユアル世代 すべて情報 ビジュアル世代でもある。

○夫婦の年齢差が少ない。友達夫婦でもある。この分析がすべての保護者に当てはまるとはいえないが、一般的な特徴として理解しておくことは必要であると考える。しかし、今、実際に子育てに焦燥感を覚え、相談相手を求めている母親も存在していることは事実である。

都立教育研究所で発行している月刊誌「教育じほう」の十二月号特集『規範意識』に科学警察研究所主任研究官の内山絢子氏は、「非行の芽は就学前から生ずる」と述べている。就学前からの親子関係が大切であること、幼児期を豊かに過ごしたかどうか、その後の人生に大きな影響を与えていること、等について読み取ることができる。

今年度、幼児教育部に籍を置き、幼児期の教育がいかに重要であるかという認識を新たにした。子育てに多くの人々がかかわって、それぞれの英知を集めることが望まれる。その具体的な方法の一つに、地域で子育てを支援することがあげられる。その中核をなすのが青少年委員の方々である。

七月の宿泊研修、九月の四区合同の研修会と一緒に学ぶ機会に恵まれ、熱心で意欲的な方々に出会うことができた。

子育ての先輩として、乳幼児を抱えている保護者の方々の良き相談相手になっていただきたい。

十一月にある区の児童館を会場とした保護者向けの研修会のお手伝いをさせていただいた。地域の児童館には、多くの住民が集うことが可能である。子育て真っ最中の人も、子どもが中学生になって新たな課題をもった人も、子育てが一段落した人も。多様な世代の人々が集う場所で、子育ての支援をさりげなく行うことができるということを実感した研修会であった。その会の中心となったのは、地区の青少年委員の方々であった。

子どもたちは、素晴らしい力を秘めている。私たち大人は、子どもたちの可能性を信じ、あきらめずにかかわって思いや言葉を伝えていく役割がある。

幼児期からかかわってきた子どもが、中学生になっても、通りで会ったら挨拶ができ、一言でも声を交わすことができる関係を育てたい。「地域の子どもは地域で育てる。」こうした言葉が生き続けていくような地域を育てていきたい。

青少年委員の方たちの熱心な研修への意欲と行動力に大きな期待を抱いている。

子どもたちの「生きる力」をはぐくむ

千代田区立昌平幼稚園 園長 矢内 敏江



新しい年がスタートしました。話題となっておりました二千年問題も今のところ大変な状況は起こっていないようです。子どもたちにとりまして、穏やかで幸せな年でありませうにと願っております。

青少年委員の皆様方には、日頃より各地域で、幼児・児童・生徒の健全育成にかかわる様々な活動を精力的に推進していただいておりますことに対し、深く感謝申し上げます。すでに、ご存じの通り、平成十年十二月に教育要領が改訂されました。幼稚園におきましては平成十二年四月一日より新しい幼稚園教育要領に添った教育が施行されます。また、小学校・中学校では、二年間の準備期間を経て、平成十四年四月一日より新しい学習指導要領に添った教育が施行されます。

今回、改訂されることになった背景には、子どもたちを取り巻く社会環境や自然環境などが急激に変化していることがあげられます。二十一世紀を担っていく子どもたちの心身の成長や発達を確かなものにするために、「心の教育」と「生きる力」をはぐくむことが大きな課題となっています。

二十一世紀は激動の時代、不透明な時代等と言われておりますが、どのような時代を迎

えようとも、子どもたちには、生涯にわたる心豊かに生き抜いてほしいと思います。

幼稚園や学校での生活においては社会体験や自然体験を通して、たくましい体としなやかな心を育成していきたいと考えております。また、幼稚園における幼児の生活や遊びは、家庭や地域社会での生活や遊びとは切り離すことはできないものです。例えば、昨年の五月に神田祭が行われましたが、その前後から幼稚園の遊びにも「神田祭ごっこ」が出てきました。適当な大きさのダンボール箱を探して来ると、友達と御輿を工夫して作ったり、それを担いで練り歩いたり、小型積み木を拍子木に見立てて一本締めをしたりする姿も見られました。また、日頃、幼稚園で繰り広げられる「おうちごっこ」や「お店ごっこ」は、家庭や地域などの生活をそのままに再現した遊びです。これらの遊びを展開する中で、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わい、自分なりに考えたり工夫したりしながら、いろいろなものを作って遊ぶことを楽しんでいきます。このような経験を通して、言語の獲得をしたり、人とかかわり方を学んだりしていきます。

家庭や地域社会での生活や遊びを、幼稚園での日々の生活や遊びの中に生かしながら、子どもたちがこれからの時代を大きな夢と希望をもって主体的に生きていけるよう、今後、青少年委員の皆様方と幼稚園・小学校・中学校との連携を一層深めていきたいと願っております。

地域に根を張る活躍に感謝して

麴町五丁目町会長 早川 平典



私達の街、麴町五丁目町会には国家公務員住宅があり、少子化と云われている時代にも多数の子供さんが居ります。近くに番町小学校があり多くの子供さん方が朝な夕な元気で通学しています。

番町小学校のこども会を永年お世話していただいた松沢さんから、今期よりこども会を引き継ぐ事になり、九月十二日の日曜日、学区の町会や父兄会の愛育・愛児会のお母さん方に加えて、青少年委員の積極的なご指導、ご協力で、驚く程大勢の子供達と一緒に楽しい一日を過ごすことができました。

当地区の青少年委員さんは二人で、一人の方は同じ町内に住んでいます。お二人共連合町会や防犯、防災、リサイクル活動等、色々な場面で私達と一緒に奉仕活動に励んでいます。

地域に根を張り、地域の様子を知り尽くしてふるさと「千代田・麴町」をより一層住みよい街にしようと努力している姿が見られ、たのもしく感謝にたえません。今後とも、益々地域のため、子供達のために活躍されんことを期待して止みません。

2000成人の日のつどい — 1月10日赤坂プリンスホテルにて (367名の参加の下盛大におこなわれました)

成人式を終えて

「成人の日のつどい」企画運営委員会 委員長 幕内 暁子

まずはじめにこの場をお借りして、成人式を企画するという機会を下された千代田区、そして青少年委員の皆様からお礼申し上げます。青少年委員の皆様をはじめとする多くの方々のお力添えがあったからこそ、素晴らしい式典を行うことが出来ました。たくさんの方々から私達の成人式をより良いものにするために手伝って下さり、たくさんの方々に祝福されて成人式を迎えられたということにとても感動すると同時に、この感動をより多くあじわうことができた企画運営委員を務められたことを嬉しく思っております。



企画運営委員会での一コマ

2000年の成人式をつくるための企画運営委員会は8ヶ月前の5月からスタートしました。初めて出会ったメンバーがほとんどでしたが、多くの意見を出し合い議論は弾みました。学校の授業や部活動、アルバイトなどで全メンバーが集まるということはなかなか難しかったのですが、真夜中に電話やファックスなどで意見を交換し合い、より良いものをつくろうとアイデアを出し合いました。招待状の文案から紙質、記念品のイラストからクイズの文章まで考えるのは大変でしたが、区の職員の方々やイベント会社の方々のご協力のお陰で、私達のアイデアはどんどん現実のものとなっていきました。まだまだ世間知らずの私たちにこのような大きな企画を任せていただいたことが大きな誇りとなっています。企画運営委員会を通じ私達は本当に素晴らしいたくさんの方々との出会



「成人の日のつどい」

いとでもステキで刺激的な仲間と出会うことができました。この成人式は生涯忘れられない良い思い出となるでしょう。今年の式典が来年へとつながり、これからもこの素晴らしい機会が新成人の皆さんに与えられることを願います。本当にありがとうございました。

99年度の活動の中から

青少年委員は毎月の定例会の他に、さまざまな活動をしてきました。その一部をご報告します。

平和を切に願う心

青少年委員 瀧井 秋子

今回、「長崎被爆五十四周年原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加し、戦争の傷跡を目の当たりに見聞する機会を持って、とても良い経験が出来ました。

八月九日・十時四十五分・地元の高校二年生の男子生徒・女子生徒の会場に響き渡る、



長崎の平和祈念像前にて

はっきりとした声での司会進行で長崎の鐘の音を合図に式典が始まりました。市内六年生による「平和の願い」の呼び掛け、市長の平和宣言そして、平和を願って作られた曲「千羽鶴」を最後に女子高校生が合唱し閉式となりました。こうした式典の中で、未来を担う子ども達がいけるいろいろな形で参加する事で受け継がれていくことが、世界の平和を目指す上で大事な事ではないかと思えました。

前日ホテルに於いて、被爆体験者安井さんの話の中で「戦争のうらみつらみを持たず、ひたむきに人生を見つめて生きて欲しい」と言う、お父様の遺言を心の中にしっかりと受け止めて、原爆の苦しみや、種々の思いを断ち切って生きていらしやる姿勢にとても感動し、いかに人生を乗り越えて『平和を切に願う心』を勉強させられました。原爆の現状を細かに聞き、原爆の惨状がもたらしたものの「死」がいかに恐ろしく、凄まじく、そしてその後の人々の生活に酷さを与えた等、言葉に言い尽くせぬ程のショックを受けました。その話を踏まえて、原爆資料館に行き、安井さんの話が改めて、再認識させられました。一人人間が作った物で、人間の存在が出来なくなる事が――

今なお、世界各国で平和を願っているにも関わらず、核実験や戦争と胸を痛める事が多々ありますが、悲劇を二度と繰り返さない事を胸に誓い、争いのない二十一世紀を創っていきたくと願うばかりです。

富士見小学校の皆さまとのボランティア活動

青少年委員 中川 典子

日本にはモノがあり余っているのに、一方では一本の鉛筆も貴重品というところもあります。眠っている文房具を有効に使ってもらおうと、ちょうど学用品の整理をする時期の一九九九年三月に、富士見小学校のPTAの皆さんと文具を集め、カンボジアに送りました。それがきっかけで、八月には、地域とPTAの皆さんが協力して行う、「キッズフェス」に参加させていただきました。子どもたちにお楽しみだけでなく、ボランティア、リサイクル、防災についても考えさせたい、という充実した催しの中で、私は文房具を送るチャリティ・オークションをお手伝い。集まった十七万六千円と、文房具、楽器などは窓口となってくれた日本在住のペン・セタリンさんを通して、カンボジアの学校の設備充実、巡回図書館の図書購入、楽器購入などのために使ってもらうことになりました。セタリンさんから直接カンボジアの歴史や現状をうかがえたのも、大きな収穫でした。

青少年委員はこのエンブレムをつけて活動しています。どうぞお気軽にご相談ください。

研修報告

青少年委員会 研修委員長 栗田 光憲

中央ブロック研修大会

平成十一年九月
千代田区教育研究所

本年度は、東京都青少年委員会連合会の中央ブロック（千代田・中央・港・新宿区）の研修大会を4年ぶりに本区の担当で9月18日（土）、神田さくら館7階研修室にて開催しました。

今回の研修テーマは、本年度に文部省より「未来に向けて、もう一度家庭を見直して、家庭の在り方を問い直そう」の答申を受けて、家庭教育は親の教育力が大事であると家庭教育手帳・家庭教育ノート・家庭教育ビデオが作製され配布されました。

そこで「これからの家庭教育の在り方」このままで良いのか、子どものしつけ？のテーマで研修方法をパネルディスカッションとして、コーディネーターに千代田区立教育研究所長の青柳健一先生に、お願いして準備段階より相談に載って戴きました。

研修大会のはじめに、青柳先生より基調提案を次の様にされました。
家庭の教育力の低下

家庭の無責任な放任、過保護、過干渉、モラルの低下

家庭のしつけ不十分の原因

- ① 各家庭が孤立化していて、母親は子育てについて勉強する機会が無い。
- ② 大人社会全体のモラルの低下
- ③ 父親の家庭内での役割と責任が、十分に果たされていない

子供と一緒に食事を

せめて週に2〜3回、父親が家庭と一緒に食事をすれば、子供の変化にも気づくだろうし、社会のルールを教える事も出来るはずである。

続いて、各パネラーより提言がありました。

【学校長として】松丸舉一先生

（千代田区立一橋中学校長）

学校が、きちんと正常な教育活動を行う様になれば、そこから家庭が変わってくる。

【専門家として】藤井千恵子先生

（都立教育研究所指導主事）

母親との一体感や関わりがどの位あったかが人格形成に影響するので、特に入学前の母子を出来るだけ地域で支援して欲しい。

【家庭の父として】飯島泰文さん

（新宿区立牛込第三中PTA会長）

親はきちんとした考え方を持たなければならぬ。今の親は責任や義務感はどうか！
【家庭の母として】幸島美智子さん

（港区立城南中学校元PTA副会長）

我が子を客観的に見られる様に努力する。子供の自立迄は責任の取り方を覚悟する。

【地域の人として】濱田周一さん

地域では子供に関心を持ち積極的な声掛けが大事であり、地域での行事での接触、ふれあいを心がけ、他人に迷惑をかけない事など大切なことは常に注意する事が必要。休憩後、質疑応答があり最後にコーディネーターより乳児期はスキンシップでの基礎的信頼感を養う、幼児期はしつける、少年期は教える、思春期は考えさせる。

つまり、難しい理論ではなく、当たり前の事、やるべき事、やってはいけない事等を、きちんと教え、育てる事が大切。学校も地域も身近なところで若い人達をサポートして欲しいとの、まとめがありました。経験豊かなパネラーの話に、3時間の研修も、あっという間に終了しました。素晴らしい研修大会だったと好評でした。



中央ブロック研修大会

管外研修に参加して

青少年委員 笹島 繁

今回で私は四回目の青少年委員としての研修会参加です。毎月実施されている定例会で検討された課題で各委員が真剣な対話の中でどうしたら未来を担う青少年に私達は何をし
てあげられるのか、何をお手伝いする事が出来るのかと思うと自分の力のなさに歯痒い気持ちで参加してきました。「これからの家庭教育の在り方」をテーマに藤井千恵子先生の講演がありました。「このままで良いのか子供のしつけ？」での質疑応答で自分自身が親として人生の先輩として模範となる日常の生活態度はどうか反省することが多い。子供の幸せを願う「心」で日夜接していたか、これで良いはずがない自分自身疑問と反省が心の中で葛藤している。学校の先生も、親も、子供も「これでいい」とは思っていない。今後子供と接する時は「未来からの使者」と思っ
てこれからの二十一世紀を、戦争のない平和な社会を築いてゆける「心」のしっかりした人に成長してもらいたいとの気持ちでおつきあいと思う。二十一世紀はコンピュータ全盛の世紀となる。人間と人間の対話がデスク画像でしか伝えられない世界となつては人情の機微や思いやり、喜び、怒り、やさしさ、人間のもっている、心の所作など表現出来るはずはない。まして本当の教育などほど遠い時代となつてしまふ。先日ある新聞のコラムに二十一世紀は、親が子供を叱れなくなる、

そこで区役所に「子供を叱る課」が出来るとまったくなさない予想だ。これからは「人間として」と云う、根本を教えなければならぬ。まず教育で人権意識を大いに高めなければいけない。教育で人権を教え、宗教でも人権を教え、政治でも人権を尊重して教え、家庭でも人間としてどう思うか、人間を「手段」ではなく「目的」として見られる社会を作らなければ永久に差別社会、不幸な社会、不平等な社会、弱肉強食な動物的な社会はなくなるならない。人権とは何かそれは私見であるが「一人の人を大切にする」事だと思ふ。これは民主主義の基本である。人権と民主主義と平和は一体であり、これは即ち、個人の幸福と社会の平和、繁栄の一致を実現する事に通じると願うものである。



青少年委員と野球

青少年委員 秋山 亘

私の青少年委員としての活動は、一年間を通した千代田区の少年野球の報告です。小中学生による春・夏・秋の野球大会の熱戦状況を青少年委員会でも報告いたします。今度の青少年委員会は、野球関係者が多いので千代田区の少年野球の話を進めてください。」とお話をいただいで、青少年委員となり早四年が過ぎようとしております。私事ではありませんが、サッカーで有名な山梨県韮崎市で生まれ、小・中・高と当然のように野球部に所属



しプロ野球選手を夢見ておりました。埼玉県に住所を移した大学生活では近所の草野球に参加し、会社も草野球チームがあることが前提で選択し入社。四十歳を超えた最近でも、千代田区の野球チームに加入し、野球を楽しんでおります。十五年程前に、縁ありまして神保町に住所を移し、子供の入学と同時にお茶の水小野球部のコーチをさせていただいて十年になります。生涯教育の一環として青少年委員を担当させていただいておりますが、子供の頃からいろいろな方に指導していただき、何歳になつても継続できる野球。千代田区の子供たちと、こんなに楽しい野球を一緒にできる環境に感謝しております。自分が教わった事を他人に教えてあげ、自分が知らな

いことは他人に教えてもらおう。これこそ生涯教育であり、私ができる青少年委員の活動ではないかと思っております。野球は五割が技術力で五割が精神力と言われております。元気のあるチームが勝利に近いところにいます。また、試合の楽しさと練習の厳しさが一番違うのも野球です。チームワークが重要でかつ一人一人が主役になれるのも野球です。今後可能な限り、野球に携わる青少年委員で在りたいと思います。



子どもたちと楽しいひとときを……

(児童館まつり)

青少年委員 内藤 恵子

昨年は青少年委員として地元の児童館まつりに参加させていただきました。十月三十日に四番町児童館、十一月十三日に一番町児童館でペンシルバルーンのコーナーを受け持ち子どもたちと一緒に楽しいひとときを過ごしました。犬やキリン、刀や帽子等の、私達が出来た物はごく限られたものですが、一緒に作ったり、また出来上がった物を持ち帰る子ども達のどの顔も、目を輝かせ喜んでくれるのを見て、私達も慣れないバルーンに苦戦しながらもとても嬉しく思いました。

麹町地区では、この様な試みは初めてですが、児童館との関わりが出来たことは、学校・家庭・地域と共に子ども達とのふれあいの場として大切にしていきたいと思えます。

平成十一年度青少年委員会

活動報告

● 定例会 (毎月第二火曜日)

● 中学校長会との会談 (六月八日・今川中学校)

● 「成人の日のつどい」企画運営委員会 (六月二十二日以降全八回)

● 管外研修会 (七月三日～四日・メレーズ軽井沢)

● プール開放 (八月二日～二十二日延べ三十五回)

● 小学校長会との会談 (十一月九日・麹町小学校)

● 「成人の日のつどい」 (一月十日・赤坂プリンスホテル)

● 管内研修会 (一月二十九日・練成中学校)

● 広報委員会・研修委員会・企画委員会 (随時)

● 中央ブロック定例会 (隔月)

● 中央ブロック研修大会 (九月十八日・神田さくら館)

● 都連合定期総会 (六月五日・東京都美術館講堂)

● 都連合研修大会 (二月二十日・赤坂区民センター)

新委員紹介

平成十一年五月一日から富士見小学校の石川明教諭が新しく青少年委員に加わりました。他の青少年委員同様よろしくお願いたします。



青少年委員は地域の官公署のかたと協力して青少年の健全な成長を見守ります。こんな時、窓口になります。
* 青少年のグループ活動としてスポーツ、芸術、ボランティアなどを行いたい時
* 学校に関する問題をどこに相談したらいいか、わからない時
その他、お気軽に声をかけてください。

編集後記

青少年委員会 広報副委員長 堀野 栄一
今年度の成人式は、会場を赤坂プリンスホテルに移し、一月十日三百六十七名の参加を得て、盛大に、行なわれました。二十歳の門出を祝すに相応しく、肅々とそして和やかなうちに終了し、運営委員の方々も一安心されたことでしょう。委員のみなさん、ご苦労様でした。青少年委員会では、今年度様々な研修を行ってきましたが、それらを如何に学校や地域に反映させてゆくかが委員の勤めではないでしょうか。今後ともに皆様のご意見・ご要望を宜しくお願いたします。
また、今号発行に際し、原稿を戴きました皆様により感謝申し上げます。

千代田区青少年委員だより

第29号

発行 平成十二年三月十日

編集 千代田区青少年委員会

発行 千代田区教育委員会